

# AGI 東アジア12カ国・地域経済動向

東アジア 12カ国・地域の経済動向を、主要統計のグラフとアジア成長研究所（AGI）の研究員による解説とともにお知らせいたします。（2022 年第 3 四半期）

## グラフの読み方

図 1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率 一国経済の基本的な経済動向を読む

- 実質 GDP 国内総生産（GDP：Gross Domestic Product）は、国内で生み出された財・サービスの付加価値の総計である。GDP には名目値と実質値があり、そのうち実質 GDP の伸び率は経済成長を測る代表的な指数である。
- GDP デフレータ 名目 GDP を実質 GDP で除した値として計算される。その伸び率は、名目 GDP の価格上昇分を表し、インフレの程度を知ることができる。GDP デフレータのプラスの伸び率が高いほどインフレ傾向にあり、マイナスの伸び率が高いほどデフレ傾向にある。

図 2：貨幣供給量と国内信用の伸び率 政府の金融政策と景気の間を読む

- 貨幣供給量 経済全体に流通している貨幣の総量。通常、金融政策は中央銀行が貸出や公定歩合操作、債券売買や外為市場介入等を行うことによって実施される。金融政策により貨幣供給量が増加すれば、短期的には経済が拡大するが、長期的には貨幣価値が下がるので物価の上昇を招きやすい。M1 とは現金の流通額と預金（当座預金、普通預金等）を合わせたもので、M2 は M1 に定期預金、外貨預金等を合わせたものである。
- 国内信用 銀行部門の貸出等（信用）の総額。政府向け信用と民間向け信用に大別される。政府向け信用は主に銀行の国債保有残高、民間向け信用は主に企業向け貸出額にあたる。この伸び率が高ければ、国内市場に循環する資金が増加したことを示す。なお、一部の国では国内債権（Domestic Claims）を使用している。

図 3：消費者物価指数、株価指数、為替レート指数 インフレと景気動向を読む

- 消費者物価指数 消費者が購入する財・サービスの価格を加重平均したもの。インフレの程度を測る代表的な指数である。指数が上昇すればインフレ傾向にあり、下落すればデフレ傾向にある。
- 株価指数 株式市場の上場銘柄全体の値動きを表す指標である。景気（および人々の期待）の動向を知ることができる。指数の継続的な上昇は好況を、継続的な下降は不況を示唆する。
- 為替レート指数 本国通貨と米ドルとの交換レート（ドル／本国通貨）。指数の上昇は本国通貨高、下落は本国通貨安を示す。本国通貨高は輸入価格の下落により、輸入がしやすくなる一方、対外的に見て、輸出価格が上昇するので輸出が難しくなる。

図 4：輸出額と輸入額 対外経済部門の動向を読む

- 輸出額 輸出数量×輸出価格。輸出は外貨獲得の重要な手段である。
- 輸入額 輸入数量×輸入価格。資本財や中間財の輸入は国内の生産能力を増大させ、消費財の輸入は消費者の満足度を高める。



公益財団法人

アジア成長研究所

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町 11-4 / TEL：093-583-6202 / URL：<http://www.agi.or.jp>

# 日本の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

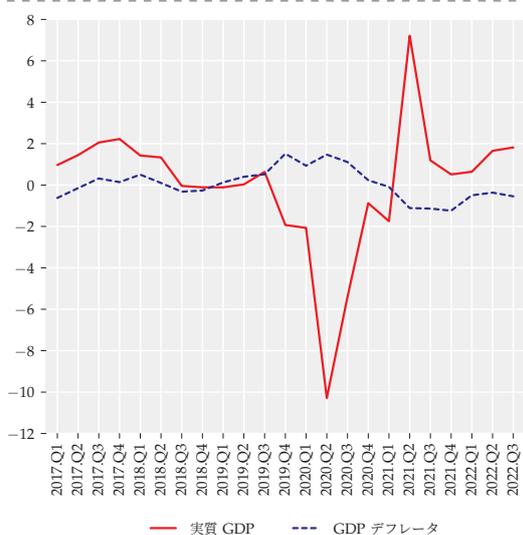


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

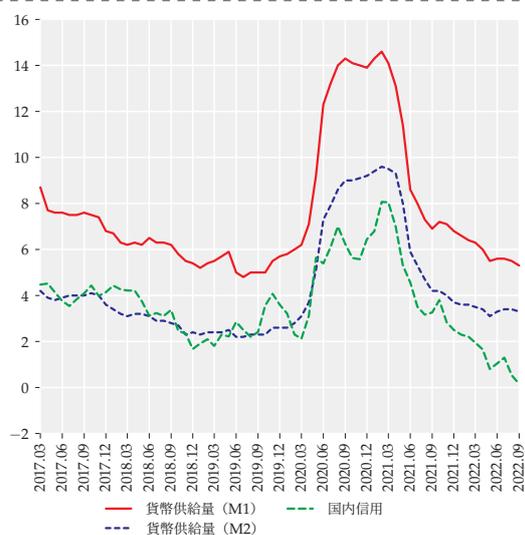


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

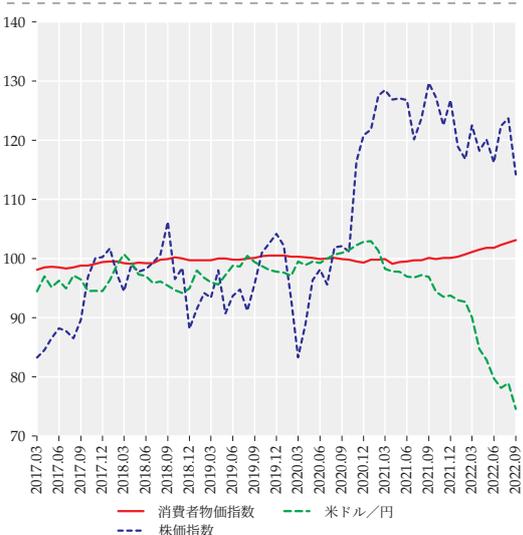
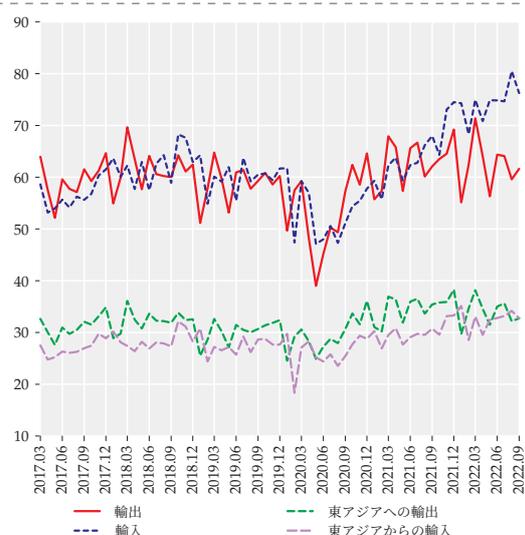


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



## 日本経済の動向 (2022年第3四半期)

2022年第3四半期の実質 GDP の伸び率は3期連続で加速し、1.82%となった(前年同期比, 速報値)。民間最終消費支出が前年同期比で4.31%(前期は3.11%)増となり、成長を牽引した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大(第7波)の影響を強く受けたものの、「まん延防止等重点措置」「緊急事態措置」がとられた前年同期に比べ、消費が回復した。2021年末から円安傾向が続いており、2022年10月にはおよそ32年ぶりとなる1米ドル=151円台の円安水準を記録した。物価も上昇を続けており、2022年10月には物価上昇率がおよそ32年ぶりに3.8%(前年同月比)を超えた。輸入額も増加を続けており、2021年8月以降14カ月連続で貿易赤字を記録している。四半期の貿易赤字が4.6兆円を超えるのは、2014年第1四半期以来である。日本経済は回復基調にあるように見えるが、新型コロナウイルス感染症や国際情勢・資源価格の動向など不確実性の大きな要素もある。経済の先行きは不透明であり、下振れリスクも大きい。(田村一軌)

## 中国の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

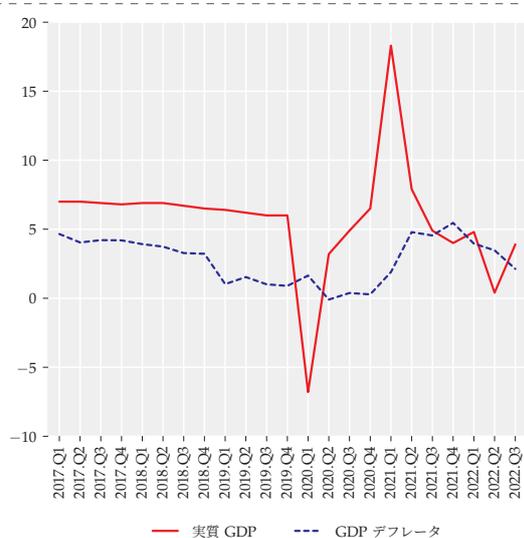


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

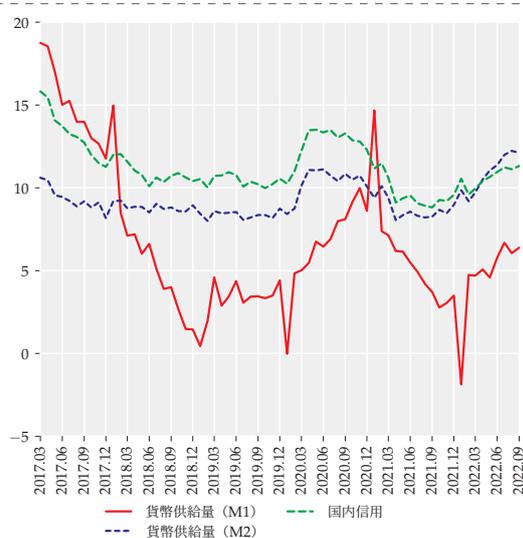


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

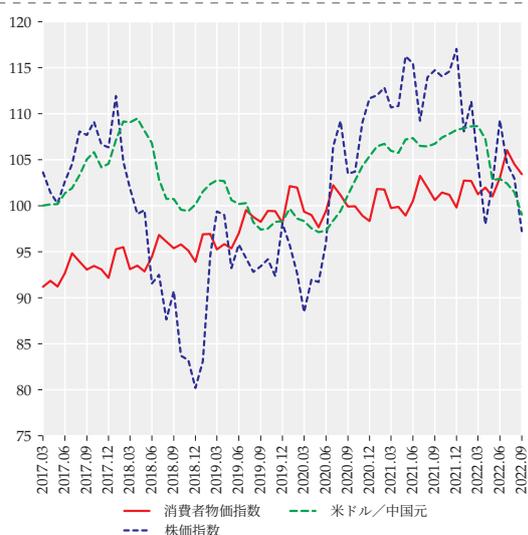
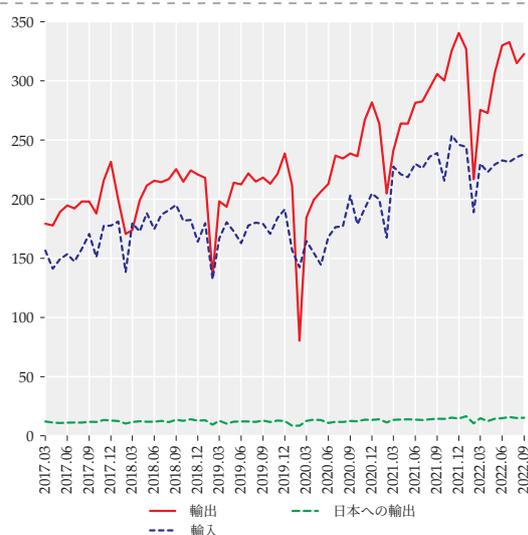


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 中国経済の動向 (2022年第3四半期)

第3四半期の対前年同期比実質 GDP 成長率は3.9%になり、第2四半期の0.4%から持ち直した。産業別の成長率をみると、第一次産業、第二次産業、第三次産業はそれぞれ3.4%、5.2%、3.2%であった。第三次産業の内、情報通信関連サービス業と金融業(それぞれ7.9%と5.5%)をはじめ、ほぼ全分野がプラスの成長となったが、不動産業の成長率は-4.2%と昨年第3四半期からのマイナス成長を続けている。第3四半期の実質 GDP 成長率に対する需要別貢献度をみると、固定資本形成は20.2%、純輸出は27.4%、国内最終消費は52.4%となっている。2020年から実施し続けられてきたゼロコロナ政策は、中国共産党第二十次全国代表大会が閉幕した10月下旬以降に一時緩和されたが、感染者の増加に伴い、11月に一層厳しく実施された。こうした政策の迷走に対して、若者を中心に国民の不満が顕著に拡大している。不測の事態を避けるために、12月に入ってから中国政府指導部はゼロコロナ政策の見直しを始めている。(戴 二彪)

## 香港の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

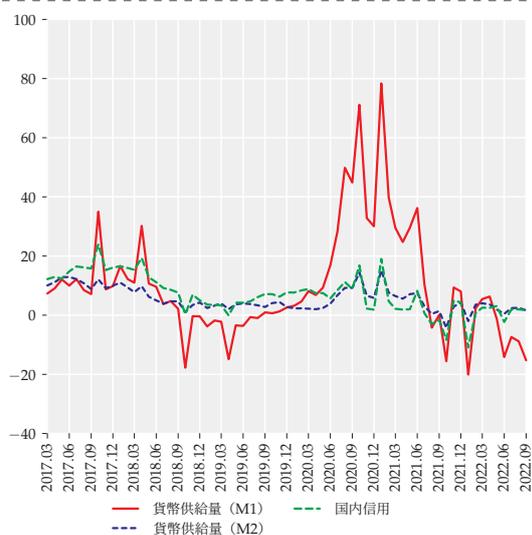


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

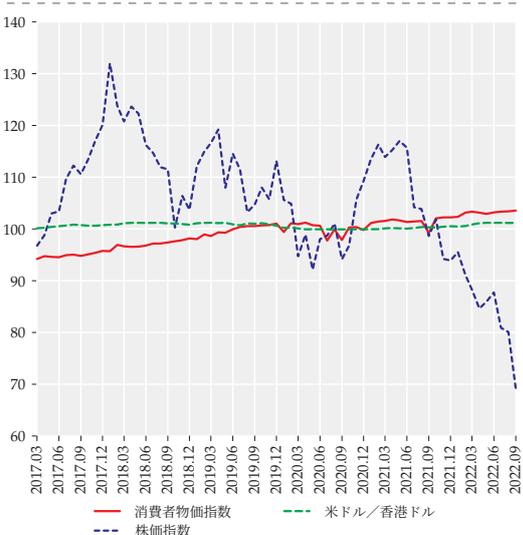
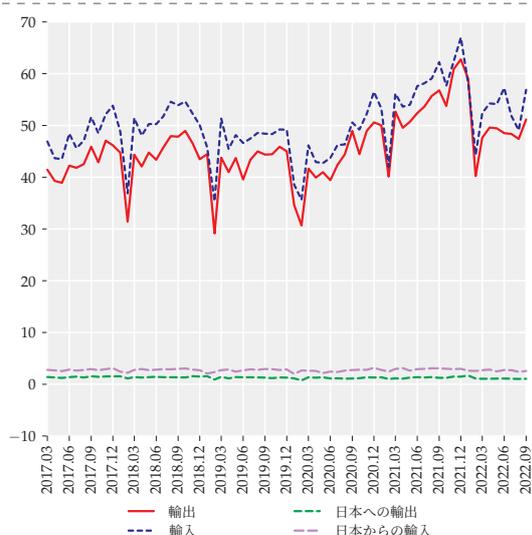


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 香港経済の動向 (2022年第3四半期)

香港政府の発表によると、主に外部経済環境の悪化による影響で、2022年第3四半期の対前年同期比実質GDP成長率は-4.5%となり、第1四半期の-3.9%と第2四半期の-1.3%からさらに下落した。第3四半期では、米国の政策金利(及びそれと連動する香港の政策金利)の上昇による金融市場・不動産市場への影響が顕在化し、投資活動が大きく抑制されるようになった。第3四半期の対前年同期比固定資本形成伸び率は、第2四半期の-2.1%から-14.3%へと大きく下落した。また、中国のゼロコロナ政策の影響で、香港と中国本土間の物流効率及び香港の中継貿易機能が著しく低下した。第3四半期の香港の財貨総輸出は対前年同期比-15.6%と急落し、第2四半期の-7.7%よりも悪化した。第4四半期に入っても、米国の大幅な利上げが継続しており、中国のゼロコロナ政策も緩和されていないことから、11月に、香港政府は、2022年通年の香港実質GDP成長率予測値を年初の2.0~3.5%から-3.2%へと大幅に下方修正した。(戴 二彪)

## 韓国経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)

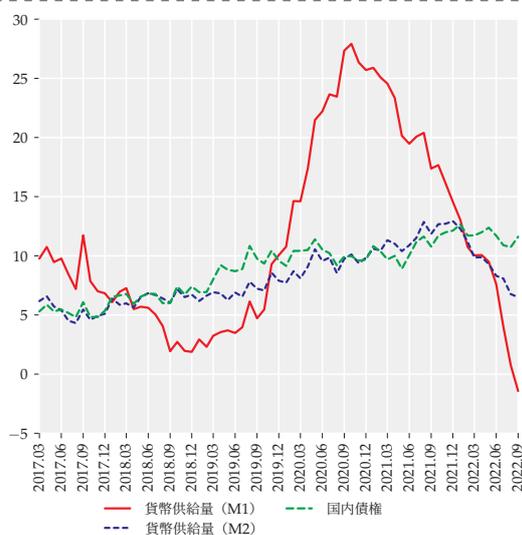
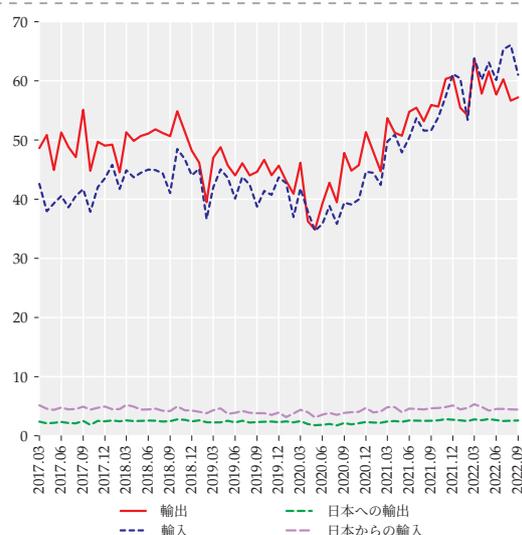


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)



図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 韓国経済の動向 (2022年第3四半期)

韓国の2022年第3四半期の実質 GDP の伸び率 (前年同期比, 以下同じ) は 3.06 %で, 前期の 2.91 %から若干持ち直した。9月末の株価指数は 2,155.49, 1米ドル= 1391.59 ウォンであった。株価の下落およびウォン安傾向が1年以上も続いている (6月末の同指標は 2,332.64, 1277.35 ウォン)。さらに, 昨今の世界情勢により, 消費者物価も上昇傾向である。そこで, 過去最低の 0.50 %まで引き下げてきた政策金利を, 昨年8月から断続的に引き上げるようになった。過去最高水準となっている外需は, 輸入が前期の 22.95 %から 22.65 %と好調を維持しているが, 輸出は前期の 13.02 %から 5.82 %と伸びに陰りが見えている。さらに, 貨幣供給量の伸び率, 特に M1 が大幅に鈍化している。コロナ禍から回復しているものの, 経済環境は厳しく, 直近ではトラック運転手による全国的なストライキにより, 物流面で大きな混乱が発生している。尹錫悦 (ユン・ソンニョル) 政権にとって, 厳しい対応が迫られている。 (坂本 博)

## 台湾の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

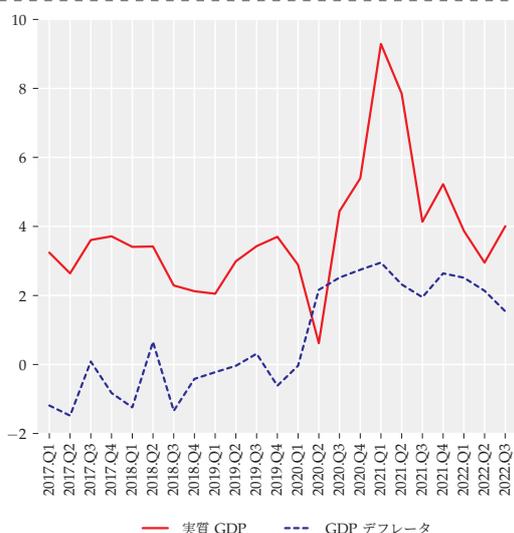


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

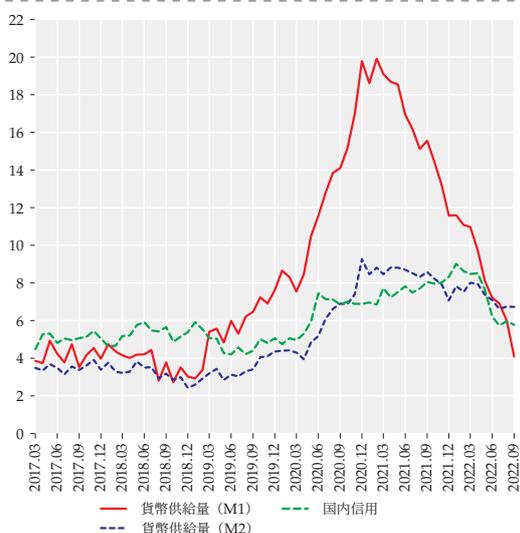


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

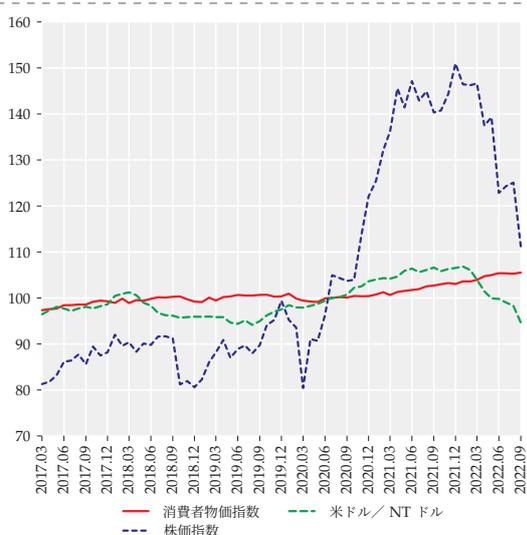
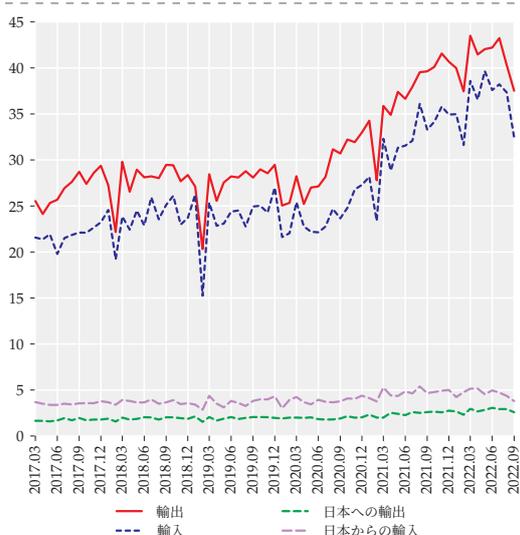


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 台湾経済の動向 (2022年第3四半期)

台湾の経済成長率は、2022年第1四半期～第3四半期において、各々、3.87%、2.95%、4.01%で、2022年通年では3.06%、1人当たりGDPは3万2,914米ドルと予想される（主計總處2022年11月29日付資料）。国際貿易では、2022年1～10月期の輸出額は4,076.5億米ドル、輸入額は3,639.3億米ドルで、対前年同期比は各々、12.0%と16.9%の伸びであった。主要相手国・地域別に輸出の伸び率をみると、中国・香港2.2%、ASEAN19.8%、米国19.3%、欧州11.8%、日本17.6%である。近年、日台双方においてスタートアップ推進が重視されている。今年、台湾のスタートアップに対して行われたアンケート調査で、「現在あるいは将来の海外市場展開での最優先国・地域は？」との問いに対して、日本は17%で米国21%に次ぐ高い比率であった（PwC & 台湾経済研究院『2022台湾新創生態圏大調査』）。この面でも日台連携の機運が盛り上がってきている。

(岸本千佳司)

## インドネシアの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

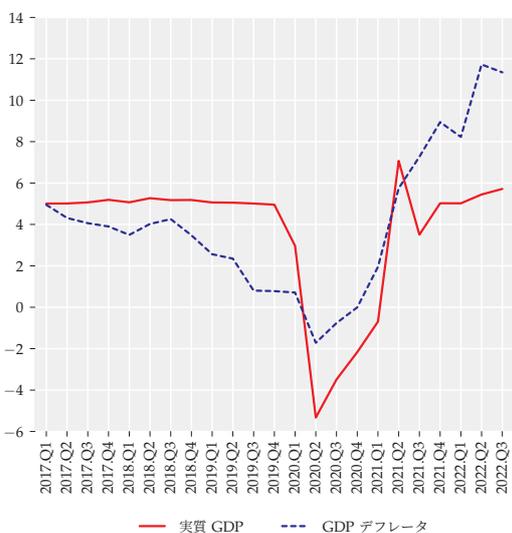


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)

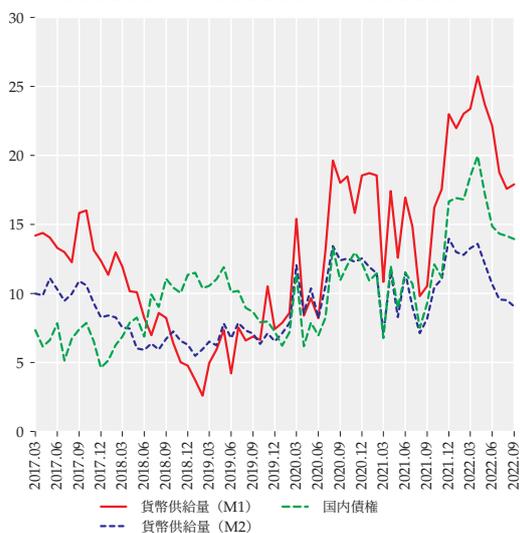


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

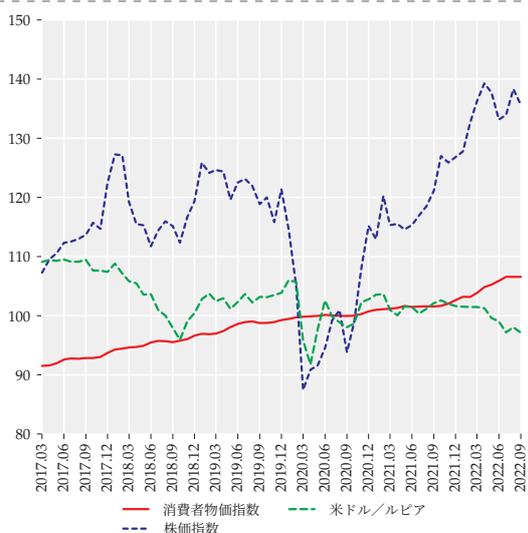
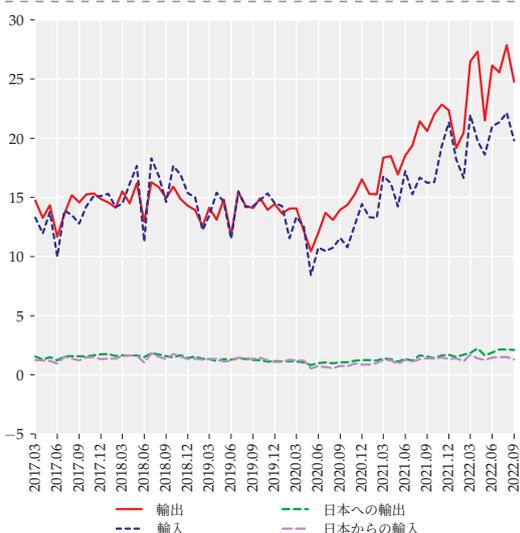


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### インドネシア経済の動向 (2022年第3四半期)

インドネシアの2022年第3四半期における実質 GDP の伸び率は(前年同期比, 以下同じ), 5.72%で, 回復傾向が続いている(前期は5.44%)。外需は引き続き好調で, 輸出は前期の38.9%から27.3%, 輸入は前期の24.6%から31.4%と, 引き続き大きな伸びを示し, 過去最高となっている。昨年末には1米ドル=約14,200ルピアであった為替は, その後も14,000ルピア台で推移しているものの, 若干ルピア安傾向である。昨年末には5,979.07ポイントと急上昇した株価は, 7,000ポイントを超えるまで上昇し, その後は伸び悩んでいる。金融指標の急激な伸びも収まりつつある。さらに, 昨今の世界情勢から, 消費者物価が上昇傾向にある。そこで, 2月に3.50%に引き下げた政策金利を, 8月には約4年ぶりに引き上げ, 3.75%としたが, その後も引き上げが続いている。11月に, 議長国としてG20サミットがバリ島で開催されたが, 世界情勢の不透明さの影響もあり, 議長国としての存在感を示すことはできなかった。(坂本 博)

## マレーシアの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)

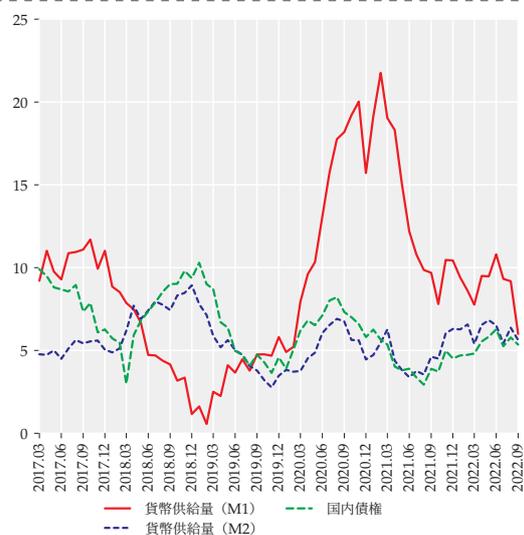


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

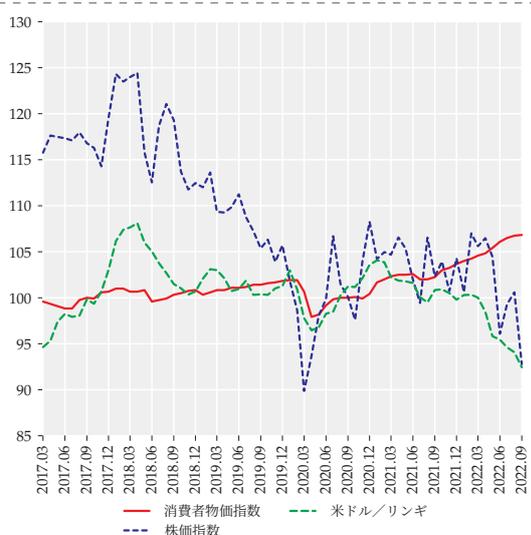
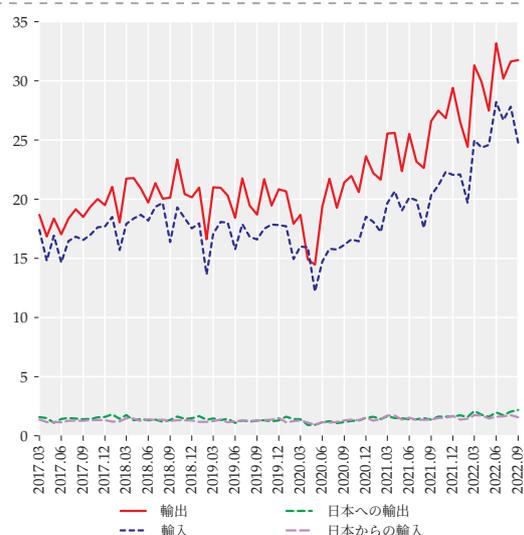


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### マレーシア経済の動向 (2022年第3四半期)

マレーシアの2022年第3四半期の実質 GDP の伸び率は(前年同期比, 以下同じ), 14.16%と10%越えを記録し, 前期の8.95%からさらに大きく回復した。民間消費が前期の18.3%から15.1%と引き続き大きく伸ばし, 総固定資本形成も前期の5.8%から13.1%と大きく回復した。政府消費は伸びが弱いものの, 前期の2.6%から4.5%に上昇した。外需も引き続き好調で, 米ドルベースの貿易額は, 輸出が前期の23.22%から29.22%, 輸入は前期の28.96%から37.15%と, 過去最高水準を維持している。一方で, M1の伸びに陰りが見られ, リンギおよび株価も, 2018年以降は低下傾向である。また, 昨今の世界情勢から, 消費者物価も上昇傾向である。そこで, マレーシア中銀は5月以降, 断続的に政策金利を引き上げている。また, 11月19日に総選挙が行われたが, 与野党ともに過半数に達することができず, 国王の仲裁の下, 元副首相のアンワル氏が首相に就任した。

(坂本 博)

## フィリピンの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

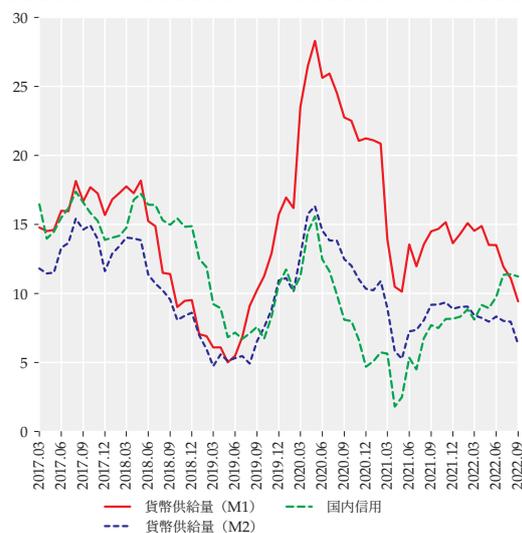


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

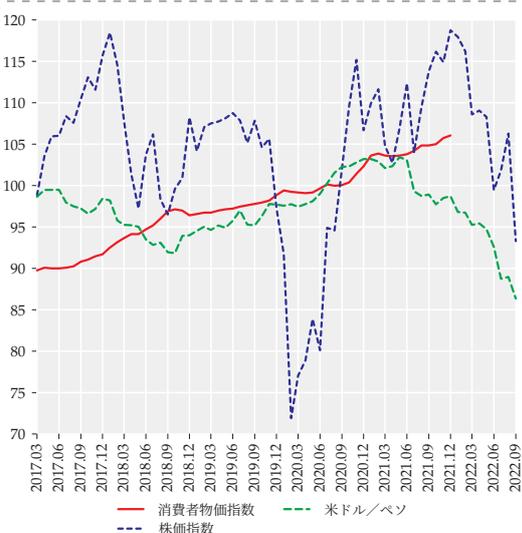


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### フィリピン経済の動向 (2022年第3四半期)

フィリピンの実質 GDP 伸び率は、2022年第1四半期～第3四半期で、各々、8.2%、7.5%、7.6%であった。2022年第3四半期の実質 GDP 需要項目別では、前年同期比の伸び率で、民間最終消費支出は8.0%（前期は8.6%）と高水準であり、他方で、政府最終消費支出は0.8%（前期は11.1%）と大きく低下した。総固定資本形成は10.1%（前期は13.6%）とやや鈍化した。財・サービスの輸出は13.1%（前期は4.4%）と急成長し、とりわけサービスの輸出が32.5%（前期は12.9%）と大きく伸びている。財の輸出も4.5%（前期は-2.2%）とプラスに転じた。同様に財・サービスの輸入も17.3%（前期は13.8%）で、高い伸び率が続いている。第3四半期の伸び率を産業別にみれば、第1次産業は2.2%（前期は0.2%）と上向きとなり、第2次産業は5.8%（前期は6.4%）とやや鈍化し、GDPの65%を占める第3次産業は9.1%（前期9.1%）と堅調であった。

(岸本千佳司)

## シンガポールの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

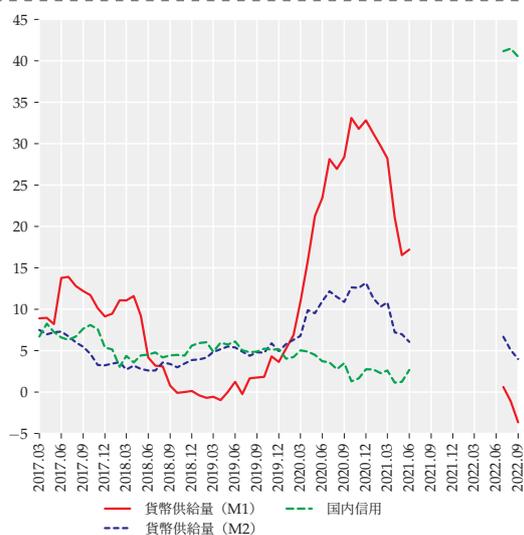


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

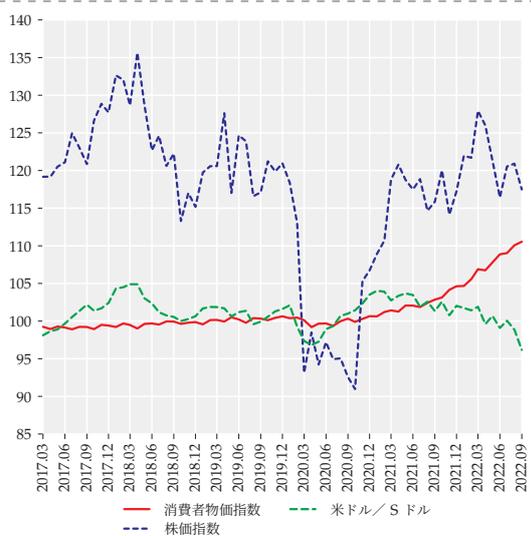
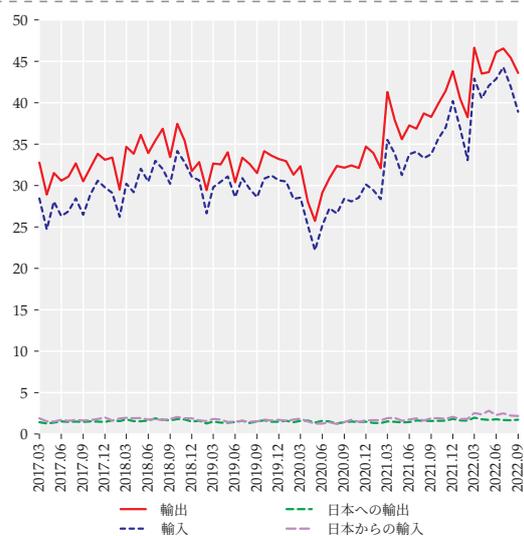


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### シンガポール経済の動向 (2022年第3四半期)

2022年第3四半期のGDPは前年同期比で4.1%増加し、事前に予測された4.5%を下回った。製造業は前期の5.6%増から大幅に減速し、前年同期比で0.8%の増加にとどまった。この四半期の成長は、輸送機器・一般製造・精密工学クラスターの生産拡大に支えられ、エレクトロニクス・化学・バイオ製造クラスターの生産減少をカバーした。小売部門は8.9%拡大し、前期の12.3%に引き続き高成長となった。卸売部門は前年同期比5.4%増となり、前期の1.6%増を大幅に上回った。建設部門は前期の4.8%から7.8%へ加速した。ロシア・ウクライナ紛争によってエネルギー問題に直面しているユーロ圏や、新型コロナウイルス感染症への対応で苦境が続く中国が、シンガポールの外需にさらに影響を及ぼした。外需の見通しの軟化は、シンガポールの輸出志向部門に影響を与え、2023年のGDP成長率に影響を与える可能性がある。MTIは、2022年のGDP成長率の予想値を約3.5%に、2023年を0.5~2.5%にそれぞれ改定した。(アルバロ・ドミンゲス)

## タイの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)

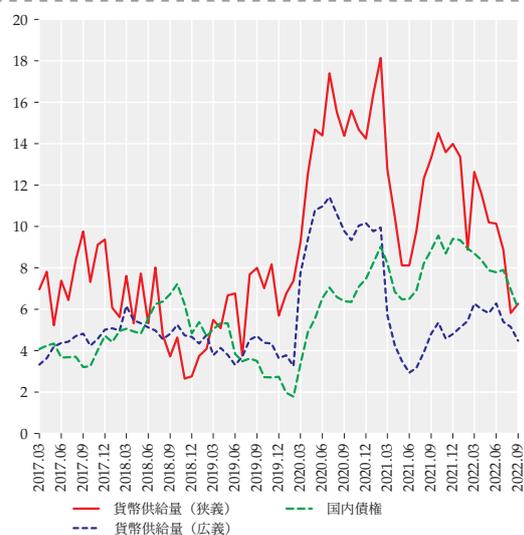


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

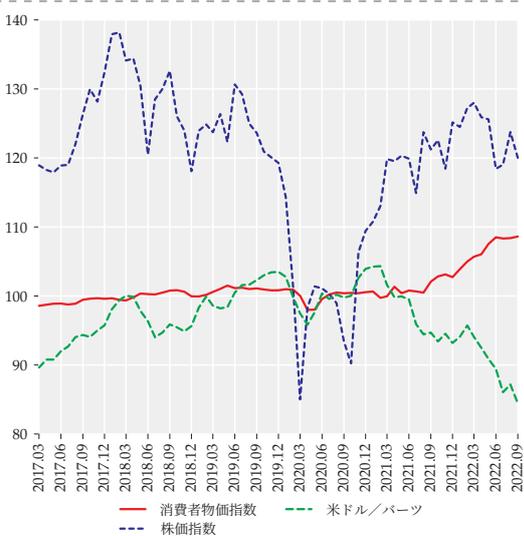
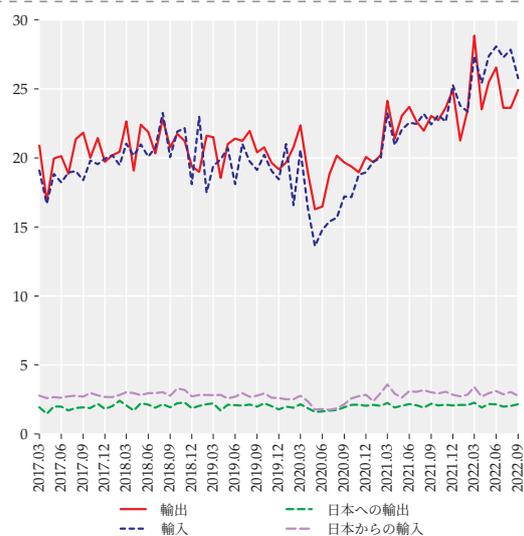


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### タイ経済の動向 (2022年第3四半期)

新型コロナウイルス感染症対策の規制が緩和され、緩やかな回復基調が続いている。2022年第3四半期の実質 GDP は前年同期比 4.5 % 増となり、2022 年の成長率見通しは従前の予測 (2.7 % ~ 3.2 %) から 3.2 % に若干上方修正された。国家経済社会開発委員会 (NESDC) によると、消費の増加や観光産業の回復が成長に寄与した。民間消費支出は前年同期比で 9 % 増となった。費目別に見ると、耐久財支出が自動車購入の拡大により 18.2 % と最も高い伸びを示したほか、宿泊・飲食や娯楽・文化に対する支出も急増し、前期の 14.1 % から 15.8 % に上昇した。外国人観光客数が 1,020 万人に達し、観光産業の力強い回復が見込まれるが、コロナ以前の年間 3,000 万人超という水準にはまだ遠い。観光客数の伸びは中国からの観光客に大きく依存しており、中国のコロナ対策に大きく影響されている。レジャー需要の低迷が予想されるなか、富裕層向けの長期滞在ビザの導入や、サウジアラビアとの観光協定締結など、より幅広い観光客誘致に取り組んでいる。(姚 瑩)



## インドの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

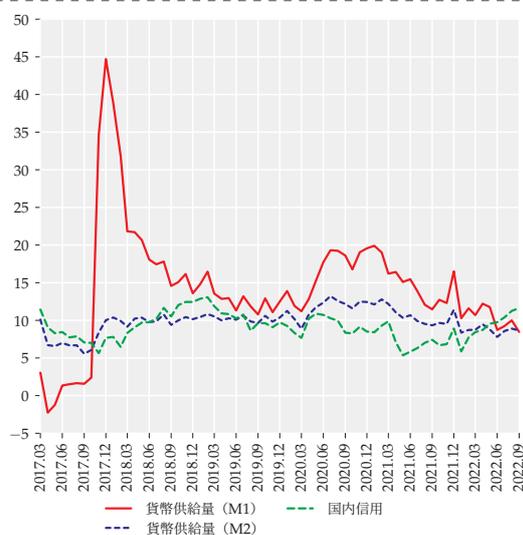


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

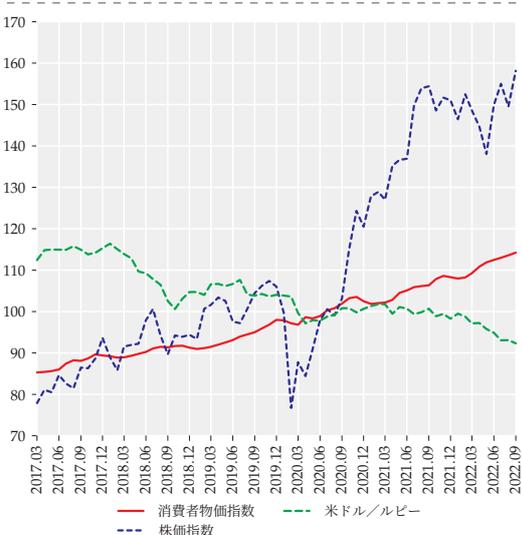
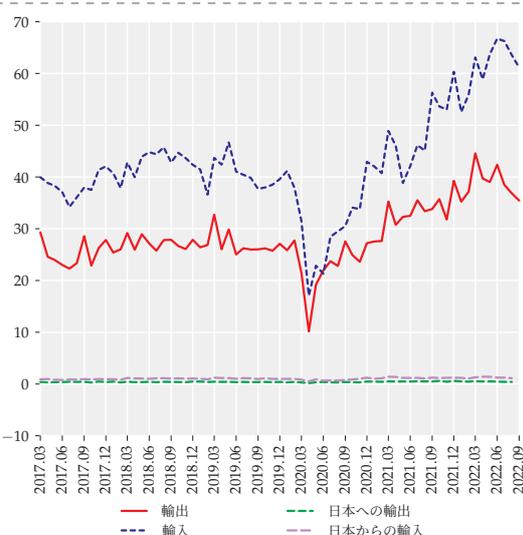


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### インド経済の動向 (2022年第3四半期)

2022年第3四半期のGDP成長率は6.3%だった。この成長率は前年同期(8.4%)より低い。第3四半期は製造業と鉱業・採石業以外の全てのセクターにおいて成長率がプラスであった。セクター別の成長率を見ると、貿易・ホテル・輸送・通信・関連サービス業と金融・不動産・専門サービス業の成長率が高く、それぞれ14.7%と7.2%であった。一方で、製造業と鉱業・採石業の成長率が低く、それぞれ-4.3%と-2.8%であった。専門家によると、外為市場のボラティリティ及びインフレの高進と持続のため、第3四半期のGDP成長率鈍化は予想通りだが、製造業の縮小が今後の懸念材料であることは確かである。インド準備銀行(Reserve Bank of India)は9月下旬、2022年度の成長率見通しを、従来の7.2%から7.0%に引き下げた。

(プラモッド・クマール・スール)

## 図に関するデータの出所および注

### 日本：

- 図 1 内閣府経済社会総合研究所 (<https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html>)
- 図 2 日本銀行 (<https://www.stat-search.boj.or.jp>)
- 図 3 消費者物価指数：総務省統計局 (<https://www.stat.go.jp/data/cpi/index.html>)；株価指数：日本経済新聞社，日経平均プロフィール (<https://indexes.nikkei.co.jp/nkave/index/profile?idx=nk225>)；為替レート指数：日本銀行 (<https://www.stat-search.boj.or.jp>)
- 図 4 財務省 (<https://www.customs.go.jp/toukei/suii/html/time.htm>)；東アジアは中国，香港，韓国，台湾，インドネシア，マレーシア，フィリピン，シンガポール，タイ，ベトナムの合計

### 中国：

- 図 1 China, National Bureau of Statistics, *Statistical Database* (<http://www.stats.gov.cn/english/Statisticaldata/>)
- 図 2, 図 3 China, Statistics and Analysis Department, The People's Bank of China (<http://www.pbc.gov.cn/diaochatongjisi/116219/index.html>)
- 図 3 消費者物価指数：China, National Bureau of Statistics, *Statistical Database* (<http://www.stats.gov.cn/english/Statisticaldata/>)
- 図 4 China, General Administration of Customs, *Statistics / Monthly Bulletin* (<http://english.customs.gov.cn/statics/report/monthly.html>)

### 香港：

- 図 1, 図 4 Hong Kong, Census and Statistics Department (<https://www.censtatd.gov.hk/en/>)
- 図 2, 図 3 Hong Kong, Monetary Authority, *Monthly Statistical Bulletin* (<https://www.hkma.gov.hk/eng/market-data-and-statistics/monthly-statistical-bulletin>)

### 韓国：

- 図 1, 図 2, 図 3, 図 4 Korea, Bank of Korea (<https://ecos.bok.or.kr>)
- 図 3 株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5EKS11/history>)

### 台湾：

- 図 1 Republic of China, Directorate-General of Budget, Accounting and Statistics, *National Statistics* (<https://eng.stat.gov.tw/ct.asp?xItem=37408&CtNode=5347&mp=5>)
- 図 2 Republic of China, Central Bank of China (<https://www.cbc.gov.tw/en/cp-511-2069-A8BEF-2.html>)
- 図 3 消費者物価指数：Republic of China, Directorate-General of Budget, Accounting and Statistics, *National Statistics* (<https://statdb.dgbas.gov.tw/pxweb/dialog/statfile1L.asp>)；株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5ETWII/history>)；為替レート指数：Republic of China, Central Bank of China (<https://www.cbc.gov.tw/en/cp-480-58819-C8475-2.html>)
- 図 4 Republic of China, Customs Administration, Ministry of Finance, *CPT Single Window, Statistical Database Query* (<https://portal.sw.nat.gov.tw/APGA/GA30E>)

### インドネシア：

- 図 1, 図 4 Indonesia, Statistics Indonesia (<https://www.bps.go.id>)
- 図 2 Indonesia, Bank Indonesia, *Indonesian Financial Statistics* (<https://www.bi.go.id/en/statistik/ekonomi-keuangan/seki/Default.aspx>)
- 図 3 株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5EJKSE/history>)；消費者物価指数：Indonesia, Statistics Indonesia (<https://www.bps.go.id/subject/3/inflasi.html>)；為替レート：Indonesia, Bank Indonesia (<https://www.bi.go.id/en/statistik/informasi-kurs>)

### マレーシア：

- 図 1 Bank Negara Malaysia, *National Summary Data Page for Malaysia* (<https://www.bnm.gov.my/national-summary-data-page-for-malaysia>)
- 図 2, 図 3 Bank Negara Malaysia, Bank Negara Malaysia, *Monthly Highlights and Statistics* (<https://www.bnm.gov.my/publications/mhs>)
- 図 2 国内債権：International Monetary Fund, *International Financial Statistics* (<https://data.imf.org/ifs>)
- 図 3 株価指数：Bloomberg (<https://www.bloomberg.co.jp/quote/FBMKLCI:IND>)
- 図 4 Malaysia, Department of Statistics, *Malaysia External Trade Statistics* (<https://metsonline.dosm.gov.my/>)；2022年5月以降：Bank Negara Malaysia, *Monthly Highlights and Statistics* (<https://www.bnm.gov.my/publications/mhs>) および Malaysia, Department of Statistics, *Malaysia External Trade Statistics Bulletin*

## フィリピン：

- 図1 Philippines, Philippine Statistics Authority, *National Accounts* (<https://psa.gov.ph/national-accounts/base-2018/data-series>)
- 図2 Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Financial System Accounts* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/Financial%20System%20Accounts.aspx?TabId=3>)
- 図3 消費者物価指数：Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Statistics – Prices* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/Prices.aspx?TabId=1>)；為替レート指数：Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Statistics – External Account* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/External.aspx?TabId=9>)；株価指数：Yahoo Finance (<https://finance.yahoo.com/quote/PSEI.PS/history>)
- 図4 Philippines, Philippine Statistics Authority, *Foreign Trade* (<https://psa.gov.ph/statistics/foreign-trade>)

## シンガポール：

- 図1 Singapore, Department of Statistics (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/economy/national-accounts>)
- 図2 Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Monthly Statistical Bulletin* (<https://www.mas.gov.sg/Statistics/Monthly-Statistical-Bulletin/Money-and-Banking.aspx>)；シンガポール金融管理局が2021年7月から統計の集計方法を変更したため、それ以降2022年6月までの前年同月比を計算していない。
- 図3 消費者物価指数：Singapore, Department of Statistic, (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/economy/prices-and-price-indices>)；株価指数：Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Monthly Statistical Bulletin* (<https://www.mas.gov.sg/Statistics/Monthly-Statistical-Bulletin/Financial-Markets.aspx>)；為替レート指数：Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Exchange Rates* (<https://www.mas.gov.sg/statistics/exchange-rates>)
- 図4 Singapore, Department of Statistic (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/trade-and-investment/merchandise-trade>)

## タイ：

- 図1 Thailand, National Economic and Social Development Council (<https://www.nesdc.go.th/nesdb-en/main.php?filename=national.account>)
- 図2 Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/EconomicAndFinancial/Pages/StatMFSSurvey.aspx>)
- 図3 消費者物価指数：Thailand, Ministry of Commerce, Bureau of Trade and Economic Indices ([http://www.price.moc.go.th/en/home\\_en](http://www.price.moc.go.th/en/home_en))；株価指数：Thailand, The Stock Exchange of Thailand, *Market Statistics* (<https://classic.set.or.th/en/market/market-statistics.html>)；為替レート指数：Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/FinancialMarkets/ExchangeRate/Pages/StatExchangeRate.aspx>)
- 図4 Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/EconomicAndFinancial/Pages/StatInternationalTrade.aspx>)

## ベトナム：

- 図1 Vietnam, General Statistics Office, *National Accounts* (<https://www.gso.gov.vn/en/national-accounts/>)
- 図2 International Monetary Fund, *International Financial Statistics* (<https://data.imf.org/ifs>)
- 図3 消費者物価指数および為替レート：Vietnam, General Statistics Office, *Consumer price index archive* (<https://www.gso.gov.vn/en/cpi/>)；株価指数：Fusion Media, *Investing.com* (<https://www.investing.com/indices/vn-historical-data>)
- 図4 2017年3月まで：International Monetary Fund, *Direction of Trade Statistics, September 2017 CD-ROM*；それ以降：Vietnam, General Statistics Office, Thematic Data, *Import-Export archive* (<https://www.gso.gov.vn/en/import-export/>)

## インド：

- 図1, 図2, 図3, 図4 Reserve Bank of India, Database on India's Economy, Statistics tab (<https://dbie.rbi.org.in/DBIE/dbie.rbi?site=statistics>)
- 図1 2022年第3四半期：India, Ministry of Statistics and Programme Implementation (<https://www.mospi.gov.in>)
- 図3 2021年2月の消費者物価指数：India, Ministry of Statistics and Programme Implementation (<https://www.mospi.gov.in>)；株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5EBSESN/history>)
- 図4 日本との輸出入：International Monetary Fund, *Direction of Trade Statistics* (<https://data.imf.org/dot>)